

日 刊	新東京	NO.4521	2008年5月2日(金)
		日本郵政グループ労働組合 JPU 新東京支部編集委員会	
		☎03-5690-2847 内線4163	

迷走する特措法国家

ニッポン

政府・与党はガソリン税(揮発油税など)の暫定税率を復活させた。これにより暫定税率分(リッターあたり25円)に加え、原油価格の高騰による調達コスト分とを併せると、レギュラーガソリンで全国平均リッター160円ほどになり、暫定税率失効後、わずか1ヶ月で過去最高値を更新しそうな勢いだ。

この暫定税率の法案の基は租税特措法だ。そもそも特措法とは何だろうか。道路建設のための税金の率を定めるのがそうだし、昨年問題になった新テロ対策特措法(給油新法案)もそう。さらにさかのぼると、イラク復興支援特措法、米軍用地特措法などがある。調べてみると、実に特措法とつく法律は170ほどある。特措法というのだからその意味するところは、「特別のことに対応する法律」ということであるから「有効期限」が定められているものも多い。そして中には重要な法律が含まれている。「特措法」を作れば普通の法律(一般法)では対応できない部分がカバーできる。ガソリンの暫定税率の扱いで言えば、道路を造る予算が足りないから特措法を作り、一定の期間税率を上げるといふ、国にとって都合のいい法律である。日切れの特措法は期限がくれば廃止になるのが筋だ。しかし、今回の復活で8回目の延長となり、各地で駆け込み給油の混乱が起きた。

福田政権下で初の国政選挙となった衆院補欠選挙(山口2区)の結果や後期高齢者医療制度の国民の反応を見る限り福田政権はまさに崖っぷちに立たされている。

投稿 愛 国 心 の か た ち

平成13年4月～平成14年3月生まれのお子さん・お孫さんがいる本社員・契約社員・パートの皆さん、小学校ご入学おめでとうございます。ゆとり教育の見直しや学力低下、子供を狙う犯罪の増加など、いろいろな課題の多い小学校生活ですが、子供たちが元気に小学校に通う姿は、励みになりますね。

さて、私奴の子も小学校に入学して教科書をいただきました。最近の学校は入学式後すぐ授業が始まるので、家で教科書に名前を記入したら、氏名の枠外に(↓)点線で示した字句が眼につきました。

この教科書は再生紙を使用しています。←今度は偽装して
いませぬよね？

*この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています、大切に使いましょう。

あれ、今までこんな字句載っていたっけ？ と不思議に思っていたら、教科書が入っている袋に(↓)に載せた文面が書かれていました。ああ、安倍前総理が推し進めた教育基本法の改正で、愛国心を育む政策の一環で、この字句を載せたのですね。

だけど、教科書は今までも無償配布されていたのですから、それをいちいち恩着せがましく強調されても…、受け取る親も子供も複雑です。こんな字句よりも、学校利権を厳しくチェックするとか、給食費の滞納や社会ルールを守らない大人を厳しく注意して、規律正しい大人の手本を示したほうが子供の教育にはよっぽどいいのになあ、と入学早々、考えてしまった親でした。

保護者の皆様へ

お子様の御入学おめでとうございます。
この教科書は、義務教育の児童・生徒に対し、
国が無償で配布しているものです。
この教科書の無償給与制度は、憲法に掲げる義務教育無償の精神をより広く実現するものとして、次代を担う子供たちに対し、我が国の繁栄と福祉に貢献してほしいという国民全体の願いをこめて、その負担によって実施されております。
一年生として初めて教科書を手にする機会に、この制度にこめられた意義と願いをお子様にお伝えになり、教科書を大切に使うよう御指導いただければ幸いです。

文部科学省

日 刊	新東京	NO. 4522	2008年5月8日(木)
		日本郵政グループ労働組合 JPU新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

日通との統合についての最新情報

J P 労組中央本部は、日本郵政との間において「日本通運との宅配便事業統合に関する労使協議会」を開催し、日本郵政から説明を受けました。

労使協議会の席上、日本郵政は、昨年10月5日に日本郵政と日本通運との間で締結した包括的・戦略的提携に関する基本合意の中で合意・公表している宅配便事業の統合に関して、日本郵政、郵便事業及び日本通運との間で検討を重ねてきたが、今回、宅配事業に関わる統合基本合意書を締結する運びとなった旨について説明を行うとともに、報道発表を行うとしています。

基本合意の概要

1. 宅配便事業統合の概要

- (1) 両社は、責任体制を明確化し、宅配便事業統合に向けた準備を加速するため宅配便事業統合のための新会社を、本年6月1日に設立する。
- (2) 新会社は、事業開始に必要な準備を行い、併せて両社においてもお客様へのサービス向上が本統合後も維持されるよう、精力的に準備を進める。
- (3) **来年4月**に、両社の統合対象事業（ゆうパック事業及びペリカン便事業）を新会社に承継することにより、宅配便事業の統合を開始する。
- (4) ターミナルや集配拠点の統合等、段階的に実施する必要があるため、完全統合までには時間を要する。
- (5) 宅配便事業の統合開始前であっても、郵便事業会社及び日本通運のインフラ、ノウハウを活用し、業務提携など実施できるものから行う。

2.新会社の概要

- (1) 商号：J P エキスプレス株式会社
 - (2) 本店所在地：東京都千代田区霞が関
一丁目3番2号
 - (3) 主な事業：宅配便事業及びこれに関連する事業
 - (4) 資本金：3億円(予定)
 - (5) 出資比率：日本郵便50%、日本通運50%
 - (6) 業務内容：宅配便事業統合の準備及びこれに関する業務(4)～(6)は当初のもの
- なお、当初は両社折半にて設立し宅配便事業統合の準備を行うが、宅配便事業統合後の資本金の額および最終的な出資比率は、日本郵便が過半数を保有するものとして、平成20年8月末日までに決定する予定。

今後の見通し

現時点では、具体的な事業計画の詳細について未定であることから、本件が各社の今後の業績に与える影響は未定。

中央本部は、今回の統合基本合意書の締結についてひとまず情報提供を受けた上で、日本郵政に対して、定期的かつ時宜をとらえた労使協議会の開催と前広な情報提供を行うよう申し入れました。

中央本部は、**宅配便事業統合は、組合員の雇用や労働条件に与える影響も大きい**ことから、①新会社が成長・発展できる会社となること、②郵便事業会社本体の経営に悪影響を与えないこと、③お客様サービスの向上が図られること、④組合員の雇用や労働条件に悪影響を与えないこと、等について見極めつつ、慎重に対応していくこととします。

〔投稿〕 解説・日本大空襲6

本題に入る前に五枚も紙面を費やした上に、今回から字も小さくて申し訳ないですが、一九四五年二月四日に神戸、十九日と二十五日に東京で無差別空襲のテストをした後、それまでの爆撃の分析の結果、日本軍は夜の方が防空戦闘機が少なく、高度二千〜三千

mの低空から爆撃すれば対空砲も威力が出ない、と分かったので、ついに三月、本題の夜間無差別大空襲を開始しました。

その「いの一番」が三月十日の東京大空襲で、国民の犠牲者が原爆と沖縄戦以外で一番多かった空襲だったので、犠牲者が十万人を超えた理由を挙げると、①爆撃目標が、下町といえは聞こえがいいが、収入の低い都民や朝鮮人の密集居住地域で、川や運河

に囲まれた地形だったり、道が狭い町並みが多く、逃げ場が少なかった。

②当日の天候が都民に不利だった。当夜は晴れだったが、悪いことに風速七〜十二m、瞬間二十mを超える暴風だった。文献などで「米軍がまず爆撃地域を取り囲んで爆弾を投下し、火災を起こして都民の逃げ場を無くした」とあるが、当日は風が火を煽ったので、米軍の目論見以上の燃え広がり様になっていった。

③空襲があった三月十日は「陸軍記念日（日露戦争の奉天会戦に勝利した記念日）」という土曜日の祝日で連休（当時は日曜のみが休日だった）になり、一家全員が揃っていた家庭が多かった。また、国民学校（小学校）の卒業式のため、疎開から帰ってきた六年生もいた。前々から「米軍はこの祝日に報復爆撃をするのでは」と軍民共に噂が絶えなかったのだが、対策は無に等しかった。

④当時の国民は、空襲があってもまず消火するのが第一の行動とされていたので、初の無差別空襲とは知らず、初期消火に当たってしまった。また「空襲時に勝手に住居を離れてはならない」との法律があり、破ったら刑罰、さらに近所に「非国民」扱いされるので、避難を躊躇した。これは、当初の精密爆撃で航空機工場が爆撃された時、国（軍）は「工場死守」を謳い、工員や勤労学徒などに避難を禁じた結果、却って爆撃にさらされ死者が増えたので撤回した、という教訓があったのだが、それが生かされなかった。

となります。（続く）

【猫舌】

日 刊	新東京	NO 4524	2008年5月 12日(月)
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

組織拡大に大きな成果

「組合員の幸せ作り」「組合加入が第一歩」との合い言葉の下、東京全体のJP労組が進めてきた組織拡大行動が、大きな成果を積み上げ集約しています。

4/16～4/25の集中オルグ期間を設定し、行動してきました。東京全体では176名の拡大を果たし、私達新東京支部においては21名の拡大を果たしました。

各分会の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

事業会社において、新採の加入70%を組織し、今後は、まだ加入されていない新採や貯金、保険会社の新採への加入行動が取り組まれていきます。

新東京支部としては、6月に開催されます全国大会までに、「時給制」「月給制」社員の皆様に組合加入を訴え、組織拡大行動を展開していきます。

組合員、役員のみなさんには、今一層のご協力をお願いします。

各分会のさらなる奮起をお願いします。

【平成20年6月期の高齢勧奨退職は実施せず】

郵政グループ各社より「平成20年6月期経営効率化勧奨退職（以下、高齢勧奨退職）の実施は行わない」との説明がありました。

本部としては、必要労働力・業務運行確保の観点から本件について了承したところです。

なお、今後の高齢勧奨退職の実施予定については、各社とも未定としておりますが、本部は、定年まで働き続けられる環境作りを基本としながらも、組合員の生活設計のためにも高齢勧奨退職制度は必要と判断しており、引き続き制度の継続を求めています。

たまにはマジメに…… 考えってみました。

先月、昔の職場の仲間たちと春スキーに行ってきました。

同じ職場で働いていたときは冬が来るたびに何度もスキーに行っていたけど職場がバラバラとなった現在では年に一度の楽しみである。

スキーの話は：長くなるので割愛：夜は酒を飲みながら仕事の話やグチ、組合のことなどとめどなく話し合った。

都内のある局（支店）で働いている先輩が、K支部で毎年行っている平和の取り組みについて語ってくれた。

その支部では5月中ごろに沖縄での平和行進に支部として参加している……ようだ。

早速、パソコンで調べてみたらすぐにわかった。

沖縄平和運動センターが企画し、沖縄では毎年行われている、とても有名なもののようにある。日程表を見てみると今年は5月15日～18日で東西南の3コースに分けて嘉手納基地や普天間基地などの米軍基地や自衛隊の基地、沖縄戦の戦跡などを見ながら、かなりの距離を「行進」する。

「辺野古への新基地建設を許さない全国集会」や「平和と暮らしを守る県民大会」などの企画も盛りだくさん。

いつもバカばかり言っている先輩が、こんなマジメな取り組みに参加していることに驚いた。この先輩は『今年も行くんだ』と自慢していた。

米兵による凶悪犯罪もいっこうに減らないし、先の見えないイラク戦争、『国際貢献のために血を流せ！』と叫ぶ放つ改憲派、きな臭い日本の戦争準備体制など考えていけないといけない、と感じました。

今年はもう時間的に無理なので、来年職場の仲間を誘って行ってみたいな〜と思いました。

来年ぜひ行くぞ！【投稿】

日 新 東 京 刊	NO. 4525	2008年5月13日(火)
	日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
	03-5690-2847	内線 4163

「平成20年度営業方針」に対する意見表明

08年4月30日

中央本部は4月18日提示された「平成20年度営業方針」に対し、下記の通り意見表明を行なった。

- 1、「平成20年度営業方針」によって郵便事業会社が民間会社として実質的スタートを切ることから大変意味のある方針と考えるが、「平成20年度営業方針」策定にあたっての本社の基本的な考え方や決意を示されたい
- 2、営業分野における郵便子会社の設立及び関連会社との提携等について今後どのように進めていくのか本社の考え方を明らかにされたい。
- 3、大口利用者奪還に向けた特約料金等を活用した利用拡大策に対する考え方を示されたい。
- 4、支社別営業収入目標額の設定について考え方を明らかにされたい。また郵便局会社の収入目標額（委託分）の設定について前年度の販売実績をどのように加味しているのか明らかにされたい。
- 5、営業と密接に関わる集荷やオペレーションなど営業基盤の強化策を講じること。また、マーケティングやセールスなどについても再構築が必要と考えるが、本社の考え方を明らかにされたい。
- 6、郵便事業の収益体制を「増収増益」体制へと転換させていくためには、営業による増収体制の構築が急務であり、その基盤は中小口営業にあると考える。
現在、ゆうパックセンターが展開されているところであるが、専門知識を持つ営業専門委員等を副センター長や統括グループリーダーに配置するなど中小口営業に関するノウハウを共有化・高度化させていく必要があると考えるが、本社の考え方を示されたい。
- 7、営業専門委員は市場性の高いエリアへの集中配置及び特産品エリアへの流動配置が示されているが、「市場性の高いエリア」の基準を示すとともに異動等に伴う営業専門委員の労働条件を明らかにされたい。

- 8、特に特産品ゆうパックに関する営業は、郵便事業会社内部（営業専門要員・集配課社員）及び郵便局会社との連携が必要と考えるが、各組織間の連携に関する具体的取り組みについて本社の考え方を示されたい。
- 9、地域密着型営業の展開は、社員の顔（信頼）を持って地域顧客との繋がりを醸成していくことが第一義にあると考える。地域密着型営業の具体的展開内容と頻繁に実施される人事異動のあり方について本社の考えを明らかにされたい。
- 10、昨年度の年賀はがきの販売枚数は36億1,600万枚となっている本年度も昨年度同様の40億枚の営業目標が示されているが、目標とした数字の根拠について本社の考えを明らかにされたい。

実態は無法状態

労働者のレンタル制を合法化した労働者派遣法。その実態はピンハネ、偽装請負など無法状態化している。

4月17日、「格差是正と派遣法改正を実現する連絡会」主催の院内集会が開かれ、野党を中心に改正の動きが始まった。

労働者派遣法は1985年に制定され、労働市場の規制緩和はその後の規制緩和路線の基盤を形成した。法定時13業種で始まった派遣労働だが、96年に26業務に拡大、その後、99年、03年に「改正」され期間の延長や業務も製造、医療の一部まで解禁された。

派遣労働者の数も88年には22万人だったのが06年には321万人に急増した。

潤う派遣元と派遣先。その下で時給は下がり続け、ピンハネ



やダンピングが横行、契約期間は細切れ化、二重・三重派遣や偽装請負など脱法行為が蔓延、禁じられている派遣先の事前面接の常態化、契約の中途解除、労災隠しなど。

派遣労働者は雇用調整弁としてつまみ食いされ社会保険はなく、常に失業の不安にさらされている。法の改正は緊急の課題である。

最近の若者言葉

省略し過ぎなんじゃないの

▼みなさん、「JK」って、何のことかわかりますか。

これ、「女子高生」のことなんだそうです。

▼私も、つい最近知ったのですが、若者の間で、このような言葉が流行っているそうなんです。

▼姓名をローマ字にして、頭文字にする『イニシャル』や、英語での組織などを表す場合の略語化は知っていますが、日常会話用語まで略語として使うとは驚きです。

▼これらの言葉は「KY語」もしくは「KY式日本語」と呼ばれるそうです。

▼基本の『空気シリーズ』で、例を挙げると、

【KY】 空気読めない

【KYB】 空気読めないバカ

【KYKK】 空気読めないことに気がつかない

【KB】 空気ぶちこわし

【YK】 読め？空気を

【KYG】 空気読めなくてゴメン

▼と、いう具合に使うそうですが、これって日本語ですか。それに、なんとも読めませんが。

▼それでは、次の言葉に挑戦してみてください。

【AM】・・・午前中ではありませんよ。

【FK】・・・フリーキック

と言いたくなりますが、実は

【AM】とは、『後でまたね』

【FK】は、『ファンデーショ

ン濃いな』。と解釈するそうです。

【AM】は、『なんじゃ、そりゃー』と、おじさん世代は呆れてしまいますね。

▼もう少し紹介しましょう。

【HK】 話変わるけど

【WH】 話題変更

【MM】 マジむかつく

【NW】 ノリ悪い

【IW】 意味わかんない

【HT】 話ついていけない

【CB】 超微妙

▼数字が入るのもあるんです。

【3M】マジでもう無理

【MK5】マジキレる5秒前

わかりましたか。【3M】は

昔使われた【3K】と、同じ使い方をするんですね。

▼ちよつと笑える言葉として

【HK】 本当に勘弁して

【MTS】 無駄な抵抗するな

【IYY】 一方的な言い方はよせ

【MMK】 モテてモテて困っちゃう

【ODD】 お前大学どうする？

【SKN】 すべての気力がなくなった

▼遊び心としては理解できるのですが、こういう略語だけで会話が成立するっていうのは、ちよつと不気味な感じがしますね。

JPU十勝南支部

機関紙より

〔投稿〕

解説・日本大空襲7

三月十日の東京大空襲後、

軍は「被害軽微」といつもの嘘の大本営発表をし、都民に緘口令を敷きましたが「人の噂に戸は立てられぬ」の例えどおり、それこそ野火のように全国に被害の酷さが伝わり、十二日の第一次名古屋大空襲以降は『命あつての物種』と我先に避難するようになったので、死者は空襲ごとに数百人、数千人になっています（例外は横浜。ここは通勤時間帯の大空襲で推定一万人以上の死者がでた）。

さて、最近の戦争モノでは各都市の大空襲は一回きりのように伝えていますが、各大都市は何度も大空襲に遭って

います。

東京は、三月十日以外にも、四月十三日の（当時）三五区北西部大空襲、十五日の南部大空襲、五月二四・二五日の山の手連日大空襲と、代表的なもので五回、それ以外や八王子市など多摩地域も含めても二十一回もありました。

名古屋市・神戸市は、市内に航空機工場が立ち並んでいたため、B29の空襲が始まった当初から、工場爆撃のありで、市街地にもかなりの被害がありました。大空襲は名古屋市で四回、神戸市で三回あり、市内は東京以上の灰燼と化しました。

大阪市は三月十三日から八

月十四日の間に六回もの大空襲を断続的に受けました。

で、連載の第一回で場違いのように「大被害を受けた」と書いた浜松市ですが、浜松市の大空襲そのものは二回ありましたが、それ以外に、浜松市は米軍に「目標に到達できないうちは、爆弾を浜松市に投下して処分せよ」と指示されていた場所（B29は富士山を基点に各地に分散していたので、富士山との距離や地形で目標にしやすかったのだろう）なので、記録に残しきれない程、多くの爆弾を投下されていました。その投下量は横浜市のそれに匹敵したそうです。…これが本当の「とばっちり」というものなのでしよう。やりきれません。

（つづく）

【猫舌】

日 刊

新東京

NO 4529

2008年
5月19日(月)

日本郵政グループ
労働組合
JPU新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

平成十九年度の 人事評価について

五月八日、「平成十九年度人事評価」についての整理をしました。

平成十九年度の人事評価は、年度途中に民営・分社化をはさんだことから、ひ

とまず公社時期を上半期(四

月一日から九月三十一日まで)

として評価し、新会社にお

ける評価を下半期(十月一

日から三月三十一日まで)と

して現在、評価をおこなつ

ているところ です。

しかし、評価結果のフィードバックは年間評価についておこなうとなっていることから、年間の評価方法について早期に整理する必要がありました。

最終的には、下半期の評価結果をベースに上半期の評価結果を斟酌し、年間評価をおこなうことで整理しました。

具体的には

「上期は○でも下期に◎の場合、年間評価を◎とする」また「上期に△でも下

期に○の場合は、年間評価を○とする」など下期の頑張りを高く評価することとしつつ「上期が◎で下期が○の場合でも、△がなく半数が◎の場合は◎にできる」など上期に頑張りに報いることで整理しました。

なお、業績評価が目標管理となつている社員の業績評価や昇任などにより役職が変わつた社員については、従前の取り扱い「異動後の期間について評価する」にもとづき下期の評価結果が年間評価となる。

(中央交渉情報)

知って得する

現行医療制度

知っ得 情報

⑤税の医療費還付制度

本人または家族の医療費や町の薬局で買った薬代などは、所得税・住民税の医療費控除が受けられます。

医療費控除額は、計算式（医療費－医療保険または損害保険などで給付された額）－所得の5%か10万円の低い方と算定され、最高200万円までが控除額となります。

医療費の範囲は、付き添いや差額ベット代を含む医療費、お産の費用、歯の治療代、通院のための交通費、はり、きゅう、マッサージ、売薬、漢方、老人保健施設の利用料、指定老人訪問介護の利用料、治療用眼鏡・補聴器、オムツ代、入院などでお手伝いさんや保育ママに支払った費用なども含まれます。

これらの控除による税金の還付請求は、原則として5年前までさかのぼれるので活用を。

日 刊

新東京

NO 4530

2008年
5月20日(火)

日本郵政グループ
労働組合
JPU新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

私の母は臆病で、恐がりだと思っていた

「母の想い出したくない話」

いつもは真面目な話 思いました。

をしない母が、テレビの東京大空襲を見ていてつぶやいていました。その時、やっと母の苦しみの一つを知ったと

母は、東京大空襲のとき、私にとつてはお婆さんである母親と兄弟2人で炎の中を逃げ

回ったそうです。

川を見ると死体の山で、自宅は燃えてしまいい、一枚の写真も残らなかつた。

炭のように焼けて死にそうな人が幼い母の足を捕まえて助けを求めていたそうです。幼い母には引き離すこともできずにいると、お婆さんが振り放してくれたそうです。そうしないと自分も炎に巻き込まれてしまう。

しかし、このことは幼い母にとつては助け

を求めている人を見捨てることになる。その時の心の葛藤と傷が残ってしまったっている。

★

昔、フォーク・クルセーダーズの「おらは死じまったただ〜」という曲がヒットしていましたが、この曲に母は怒っていました。

私は洒落のわからない人だと、当時は思っていました。

また母は位牌とか仏壇を家に置くのが嫌いでした。

私は、こういう母をいままで、怒りつぽくて、臆病で、恐がりて変わった人だなあと思っていました。

今回のつぶやきを聞いてやっとわかった気がしました。

★

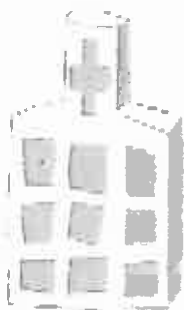
母にとっては戦争は過去のことではなく現在もひきづつていて、トラウマになっているのだ、ということがわかりました。

母の苦しみは大変なものだと思えます。

★

私は、いま都心から離れているところに住んでいます。東陽小学校を卒業し、勤めているところが新東京局と、東陽町（江東区）周辺に縁があります。

このように、東京大空襲にも何かと縁があり、このことを考えていかなくはならないと思つています。（談）



日 刊

新東京

NO 4531

2008年
5月1日(水)

日本郵政グループ
労働組合
JPU新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

おやじ倶楽部

「すだて漁」の巻!



先日、一普の先輩の紹介で、
袖ヶ浦沖の「すだて漁」を体
験してきました。

「すだて漁」とは、遠浅の
海に迷路のように網を張って、
潮の満ち引きによって魚を獲
る漁のことで、前にテレビで
見たときは、鯛やスズキ、ヒ
ラメ等の魚がたくさん獲れて、
まさに大漁、喜々状態!

：という感じを予想して意
気込んでいたんだが、当日の
天気は雨のち曇り。けつこ
う着込んだけど少し肌寒い。

その日は母の日だったので、
お土産(魚)をたくさんお持ち
帰りしようと思論んでいたら、
行ききの電車の中で先輩に、
「**年功序列だからな!**」
と、溘まれて意気消沈...

集台場所の袖ヶ浦駅に着い
たら、知ってる顔がちらほら

よく見ると、先日のメーテ
ィで元気に酒を呑んでいたお
やじの面々。さらにその奥さ
んや、友人やら、2普のゆ
うメイトさんやらで総勢40
名強の参加者。

「これは鯛のお持ち帰りはな
い」と早くもお土産は諦め
つつも、漁協の方の乗台へ
揺られて袖ヶ浦の漁港へ。

「ばが長」と呼ばれる魚屋さ
んが、はいている防水スポン
を着て、屋形船に乗り込み、
あげてきた。船は一向に港
が学ら出ない。船は一向に港
で、まだ船は出せないとの
事。

横から潮風が雨と一緒に叩
き付ける中、宴会が始まった。
アサリ、バターや、セイゴ(ス
ズキの幼魚)の煮付け、天ぷ
ら等いろいろな料理が出てきた。

それをバクついていっていると、
先にすだてに入っただ人が魚を
獲ってきた。
よーし!、と意気込んで海
に入り、すだてに直行!

裏面トックリ

…あれ？
…いない。
…魚がない！

仕方なく潮干狩りでもして
アサリでも獲るか！と思つた
ら、一番沖のすだてから戻つ
てきた大先輩が
「まだ、でかいのがいるんだけ
どなく」と言いつつも、網の中
には、でかいスズキが2本も
入つてゐるのが見えた。

今度こそ！と勇んで沖に立
てられた「すだて」に波をかぶ
りながら進んでいく。
内心焦りながら、それでも
慎重に行くといふ！
大刀魚みたいに銀色の魚体
を蛇のようにくねらせて泳いで
ゐる。

「グツだ。」
無我夢中で魚を網で捕獲し
た！

獲つたどー！

…つて叫びたかつたけど、他
にもいるかな、と思ひ、辺り
を見回す。
結果3匹のグツと雑魚少し
を網に入れて船に戻つた。

船に居るおやじ連中は、寒
がつたせいでお酒を話さば
らなつて、私のお酒を話さば
らなつた。酒をあおつてゐる。
ネタに、酒をあおつてゐる。

また、船のすぐそばの干潟
でアオヤギ(貝)がたたくさ
ん獲れるぞ！つて聞いたので行
つてみると、ひとかきで2
3個獲れる。面白いようにア
オヤギが獲れた。

潮干狩りをしながら「この
貝、本当に美味しいのだから
か？」と一抹の不安を抱きなが
ら掘る、掘る、掘る。

もの10分でアオヤギは
網一杯になつてゐた。

寒くて、小雨まじりの中
のすだて漁でしたが、皆口々
に「来年もやるうな」という声
が、とても温かい気持ちにさ
せてくれた。

余談ですが、帰りの総武線
快速の中のおやじ連中の酔つ
ば、早いおやじ連中はもう…
…大変でした。

お袋にグツを2匹届け、グ
ツは煮付けに、アオヤギは茹
でて刺身で美味しくいただきました。

《一》

※分会の飲み会報告や、
退職者、ゆづり梅、トさんの
記事を募集しております。
詳しくは支部役員まで

日本通運との宅配便事業統合に 関する労使協議会を開催

4月25日中央本部は、日本郵政との間において「日本通運との宅配便事業統合に関する労使協議会」を開催し、統合基本合意の概要について説明を受けた。

本件に関する報道発表以来JP労組が前広な情報提供と定期的な労使協議を求めて、従来から設置を求めてきたものであり、第1回を開催したものである。

労使協議会の席上、日本郵政は、昨年10月5日に日本郵政と日本通運との間で締結した、包括的・戦略的提携に関する基本合意の中で合意・公表している、宅配便事業統合に関して、日本郵政、郵便事業および日本通運との間で検討を重ねてきたが、今回、宅配便事業に係る統合基本合意書を締結する運びとなった内容について説明してきた。

現時点では、具体的な事業計画の詳細について未定であることから、本件が各社の今後の業績に与える影響についても未定であり、中央本部は今回の統合基本合意書の締結について、ひとまず情報提供を受けた上で、日本郵政に対して定期的かつ時期を捕らえた労使協議会の開催と前広な情報提供を求めた。

中央本部は、宅配便事業統合は、組合員の雇用や労働条件に与える影響も大きいことから、①新会社が成長発展できる会社となること、②お客様サービス向上が図られること、③郵便事業会社本体の経営に悪影響を与えないこと、④組合員の雇用や労働条件に悪影響を与えないこと、等について見極めつつ、慎重に対応していくこととする。

統合基本合意の概要

1 宅配便事業統合の概要

- ①両社は、責任体制を明確化し、宅配便事業統合に向けた準備を加速するため宅配便事業統合のための新会社を、本年6月1日に設立する。
- ②新会社は、事業開始に必要な準備を行い、併せて両社においてもお客様さまのサービス向上が本統合後も維持されるよう、精力的に準備を進める。
- ③来年4月に、両社の統合対象事業（ゆうパック事業及びペリカン便事業）を新会社に承継することにより、宅配便事業の統合を開始する。
- ④ターミナルや集配拠点の統合等、段階的に実施する必要があるため、完全統合までには時間を要する。
- ⑤宅配便事業の統合開始前であっても、郵便事業会社及び日本通運のインフラ、ノウハウを活用し、業務提携など実施できるものから行う。

2 新会社の概要

- ①商号：JPエクスプレス株式会社
(じえーびーえくすぷれす)
英文名称：JPExpress
- ②本店所在地：東京都千代田区霞が関一丁目3番2号
(日本郵政本社ビル)
- ③主な事業：宅配便事業及びこれに関連する事業
- ④資本金：3億円(予定)
- ⑤出資比率：日本郵便50%、日本通運50%
- ⑥業務内容：宅配便事業統合の準備及びこれに関する業務（④～⑥は当初のもの）

なお、当初は両社折半にて設立し宅配便事業統合の準備等を行うが、宅配便事業統合後の資本金の額及び最終的な出資比率は、日本郵便が過半数を保有するものとして、本年8月末日までに決定する予定としている。

日 刊

新東京

NO. 4533

2008年
5月23日(金)

日本郵政グループ
労働組合
JPU新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

6月に全国大会が 札幌で開催されます

〔第1回定期全国大会の課題〕

昨年の10月22日に結成された日本郵政グループ労働組合（J P 労組）の初めての全国大会が6月18日～20日の日程で北海道立総合体育センター「きたえくる」において開催されます。

郵政事業の民営分社化という大きな事業環境の変化の中で「組合員の幸せの実現」と

いう大きな目的で40年に渡る長い郵政労働運動の歴史や経験を持ち、かつては労労対立ともいわれたものに終止符を打ち、過去にとらわれることのない新たなスタートとしての「J P 労組」を結成しました。

民営分社化後、8ヶ月がたち、さまざまな課題がグルー

プ各社・フロントラインである職場の中より出されていきます。また、民営分社化にともなうロスに起因するものも多く存在しています。当然にもマスコミのネタにされることもたびたびです。

郵政事業の現状に対し深い憂慮を感じざるを得ません。安心して健康的に働いていくためにも、また、安定した郵政サービスを高品質に確保するための事業基盤を強化するためにも、要員確保政策が求められています。

グループ一体経営のシナジー効果（相乗効果）も、まだの感があります。

民間単一労組としては最大の「J P 労組」の第1回定期全国大会は内外から注目を持って開催されることになりま

す。今大会は、人事をとまわらない「中間大会」としての位置づけとして開催され、「2008年度運動方針」としての単年度の運動方針が提案されることとなります。

骨子となるものは、組織統合（支部段階）への道筋と創生期と位置づけた運動づくりです。

昨年の結成大会で確認した、対等・互譲の精神をしつかりと胸に受け止め、新たな組織の融和をはかり、新たな地平で郵政労働運動を構築していく提案がされます。

議案書の配布がそろそろ始まりです。各職場での議案の検討、討論の開催・参加を要請いたします。

大田地区協、春季生活闘争セミナー開催

～「郵政改革の現状とJP労組の取り組み」について学びました～

4月18日(金)18:30から大田地区協は、大田区生活センターで春季生活闘争セミナーを開催。今回は、中南地協の副議長としてご活躍頂いた小林忍さん(JP 労組東京地方連合会 書記長)を講師に招き「郵政改革の現状とJP 労組の取り組み」と題して、民営化に対する労働組合の取り組みを中心に、わかりやすく講義を受けました。特に、民営化直後の大きな課題として、①簡易郵便局の閉鎖、②企業分割への対応の間のサービス低下、③新規業務への取り組み、などについて労働組合としてどう対応していくかに多くの時間を費やしたそうです。さらに政府が三分の一以上の株を保有しているという特異な民間企業として、今後、いかに公共性を保持しながら民間企業としての独自性を発揮していくか、このことは、組合としても最大課題である、と熱っぽく語られました。

また、これまで以上に社会の公器として、その社会的責任を果たしていくか、労働組合としてのチェック機能を高めていきたいと訴えられました。参加者からは、「民営化の背景と現状についてとても勉強になった」、「労働組合の経営へのチェック機能の大切さを痛感した」という声も聞かれ、参加者総数59名のホットなセミナーとなりました。



▲民営化に対する労働組合としての取り組み内容について語る 小林 忍 氏

丸の内支店業務移管で 思ったこと

5月7日に郵便事業会社の丸の内支店の業務が、銀座支店へ移管され、ほぼすべてが銀座支店での業務運行となった。

先日、元丸の内支店の仲間と軽く飲む機会があり、銀座支店での業務の状況について聞いた。

到着郵便物に関しては、内務課から集配課に郵便物を交付するのが遅れてしまい、集配課ではそれゆえ配達が遅れてしまう。当然にもお客様からは、直接接している「郵便屋さん」に苦情を言ってくる。当然である。が、苦情を聞かなくてはいけない「郵便屋さん」

はまいつてしまう。

新しい支店での業務ということ、多少混乱しているためにスムーズな業務運行ができないのはわかるにしても、お客様には納得していただけないのではないか。

その責任を現場の第一線に向けることは、ぜひとも回避してもらいたい。

他局(他支店)のことであるが、事前準備はどうだったのか、移管後の対応はどうだったのか、疑問は多い。

ひるがえって考えると…新東京

での対応はどうか。

メンコ(標札)についてはあいかわらず…である。

書留の継越郵袋にかぎっても、メンコ(標札)の表示のしかたはさまざま…めちやくちやである。急きよ現場の判断で対応したが、旧丸の内支店で処理するものと銀座支店で処理するものが、ごちゃ混ぜのもんじゃ焼き。対応しきれない。

これが、日本全国から集まって来るのだからもう大変。なんでも対策がゴテゴテなのか。

いっそのこと、メンコ(標札)なんて無理に変えないで旧来のままいきますかね。

銀座支店なんて言わなくて「東京中央郵便局」でいきましよう。ダメですかね、西川さん。

【投稿】

〔投稿〕 解説・日本大空襲 8

最後に、日本の各都市がB29に空襲を受けている間、日本軍の防空隊は何をしていたか、ほとんど説明がないので記します。

日本の航空戦力は、当時まだ空軍は組織しておらず、陸海軍ごとで航空隊を編成していました。日本の防空は主に陸軍の管轄で、海軍は軍港のある都市の防空を補佐していました。が、戦場の拡大に伴う戦力の引き抜きと、日本軍は攻撃一辺倒体質で防衛は二の次だったので、防空戦闘隊は必要性が判っていないながら、なかなか強化されませんでした。

日本軍は零戦に代表される幾つかの優秀な航空機を開発しましたが、B29はそれらの五年先をゆく機体性能を持っており、防空戦闘機は高度一万mを飛行す

るB29を迎撃するどころか、同じ高度にたどりつくのも難しい有様だったので、日本への爆撃が始まった当初から戦闘機をB29に「体当たり」させて撃墜する戦法(体当たり後の脱出は許されていたが…)を主に採りました。普通?に機銃でB29を撃墜できたパイロットは極少数だったそうです。

しかも、夜間飛行できる戦闘機やパイロットは少なく、レーダー装備も無かったので、無差別夜間空襲の時も迎撃はしたものの、B29の撃墜どころか捕捉もできず翻弄されるがままでした。その上、昭和二十年三月、苦しみながらも硫黄島を占領した米軍は、B29の不時着地を確保したと同時に、四月の空襲(昼間)から「史上最

強のプロペラ戦闘機」といわれたP51マスターングをB29の護衛に付けられるようになったので、機体性能で米軍機に完全に先を越され「油の一滴は血の一滴(より貴重)」とまでいわれた石油(燃料)も枯渇した日本軍は、終いにはB29の迎撃もできなくなってしまったのでした。戦争とは、軍事力だけでなく、国の全ての力のぶつかり合いなのです。

こうして、ダラダラと空襲について書きましたが、お付き合い頂き、ありがとうございます。現在は中国政府の宗教弾圧によるチベット動乱の余波で、世界にキナ臭い空気が漂っていますが、今こそ戦争を学び、武力で事象を解決する事の徒勞と虚しさを日本が世界に発信する、最後の機会ではないかと思っています。(おわり)

【猫舌】

〔投稿〕

解説・日本大空襲 余談

東京大空襲のドラマが放映された頃『明日への遺言』という映画が公開されていました。太平洋戦争末期の東海地方の軍需管理部長で、敗戦直前に東海軍司令官になった、岡田資（たすく）陸軍中将のB級戦争犯罪裁判の模様を描いた映画です。

知人が「岡田資ってどんな人？」と筆者に尋ねてきたので、空襲が軍民無差別と化し、米軍が非人道的行為（非戦闘員を意図的に焼死させた行為。いくら軍人でも非戦闘員とわかる人間を殺傷してはいけないと、どの軍でも（当然旧日本軍にも）規則がある）を行ったと判断して、墜落したB

級のパイロット（捕虜）を日本の軍事裁判にかけて処刑した人で、戦後、連合軍にその裁判を咎められB級戦犯として死刑になった、まあ当時の日本軍の中では国際法規に明るい将校だった、と答えました。岡田中将の行為は、米軍捕虜を日本の裁判で処刑せず、米軍に引き渡して米軍の軍事裁判で有罪に問えば、B級戦犯で死刑になることはなかっただろう、とは思いますが、これだけなら「岡田中将みてみれば」と、この映画を軽くスルーするのでしょうか、物知りの悲しい性でしょうか。どうしても一九四四年十二月七日に起きた東南海地震（M

8.0）で、岡田中将は東海地方の軍需管理部長の立場にあって、罹災した国民が物資も食料もない寒空の下耐えていた中ぬくぬくとやり過ごし、また罹災した勤労奉仕者や女子挺身隊らに緘口令を敷いた上に「震災ごときに腰を抜かすな」と無理な檄をとばし、政府に地震の被害を過少報告した責任は問われないの？と考えてしまい、映画を楽しめなくしてしまおうのでした。

最近、太平洋戦争時の軍人の行為を見直す動きが盛んですが、見直すなら良い行為と悪い行為を全て挙げた上で、総合で判断しないといけない例が岡田中将だ、との意見は穿ちすぎ、ですかね（苦笑）。

【猫舌】